

Q
A

ウッドデッキを国産の無垢の木でつくれますか。

?
!

油脂分が多く水に強い、杉の赤身を選びます。

デッキ材には一般的に米杉（ウエスタンレッドシダー）などの輸入材が多く使われています。しかし国産材でも、杉の赤身（芯材の赤い部分）なら屋外にも使えます。

徳島県の林業家・和田善行（TSウッドハウス協同組合）さんに聞きました。

「杉の赤身は油脂分を多く含み、堅くて腐りにくいという性質があります。無塗装で使うと、陽に焼けてだんだん銀鼠色の侘びた風合いになるのも魅力です。雨が直接かかるデッキでは、だいたい10

年を目処に取り替えを考え、デッキのつくりは、交換しやすいようにします。また台風の多い地域では、デッキにかかった雨がはねて家の敷居に回り、家本体を傷めることが心配されます。敷居との間に隙間を開けるか、デッキを一段低くする昔ながらの縁側のようなつくりをお勧めします」。

ところで市販されているデッキ材には防腐処理を施した製品があり、安全性に疑問なものも多いようです。宮崎県の舩肥杉（おびすぎ）による「弥良来杉（みらくるすぎ）」は、酸化亜鉛含浸処理を



❖「弥良来杉」2×4（38×89mm）規格、長さ2mで1,560円/1本～。杉の自然な色や香りを損なわず、塗装は不要。防腐・防蟻効果の10年保証付き。
問合せ：宮崎県木材青壮年連合会 Tel.0982-55-3332
<http://www.miyazakikensanzai.com>

施した屋外専用の無垢の木材。もともと舩肥杉は油脂分が多く、古くは造船用材として使われてきました。さらに、その油脂分になじむ有機酸亜鉛やポリエチレングリコールという、ベビーパウダ

ーやハンドクリームに用いられる安全な成分を注入し、長期的な耐久性・耐候性を高めています。燃やした後に残るような重金属は含んでいません。安全で長持ち、環境にも配慮したデッキ材です。

Q OMソーラーの家は冬暖かいと聞きましたが、夏の働きはどうですか？

A 床下の冷熱を利用する、新しい工夫が加わりました！

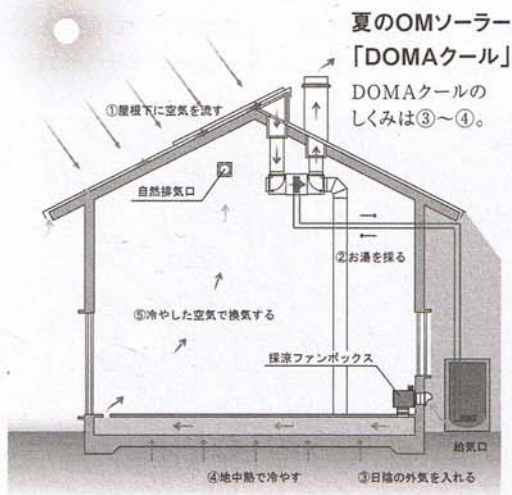
OMソーラーは、自然の力を上手に利用します。冬は軒先から取り込んだ外気を屋根に降り注ぐ太陽熱で温め、ファンで床下に送り蓄熱

させながら床暖房を行います。太陽熱を使うため、家全体が自然な暖かさに保たれると共に、外気を取り込むので、暖房しながら換気も行います。

一方、夏の昼は太陽熱でお湯をつくり、夜は屋根面での放射冷却効果を利用して外気の温度を下げながら室内に導く「夜間外気取り込み」を行います。しかし昼間も自然の力を利用した暑さ対策を願う声がありました。その声に応じて新しく提案するのが採涼換気システム「DOMAクーラー」です。「DOMAクーラー」は、夏の昼間、建物北側の日陰部分の比較的涼しい外気を室内に取り込むしくみで、その際に床下を経由させる点が特徴です。OMソーラーの家の床下には、冬場太陽熱を貯める場所

として蓄熱コンクリートがあり、土間のように夏は外気に比べて温度が低くなっています。取り込んだ外気を、このコンクリートの冷熱に触れさせながら室内に送ります。エアコンのような涼しさとはいきませんが、自然な形で室温の上昇を抑えることができ、室内の換気も同時に行います。

窓を開ける、打ち水する、簾で日射を防ぐ、樹を育てるなど昔ながらの暮らしの知恵とあわせて、OMソーラーでは、「DOMAクーラー」での夏の過ごし方を提案します。（松村幸次・OMソーラー協会）



“
?
●
”

SUMU
SQUARE
“Q&A”

